

分科会提案

健康の保持増進と豊かなスポーツライフを実現する保健体育学習の創造

— なかまとの関わりを通して学び合い高め合う生徒をめざして —

さぬき・東かがわ支部

さぬき市立志度中学校 教諭 岩瀬 彩

1 研究主題について

平成 29 年度に行われた香川県中学校教育研究大会開催支部として、話し合い活動を核にすえ、「なかまとの関わりを通して学び合い高め合う生徒をめざして」をテーマに設定し、研究成果を報告した。

同研究大会で明らかとなった課題は、以下のとおりである。

- | |
|-----------------------------------|
| ① 全ての生徒が話し合い活動に参加するための場や持ち方の工夫 |
| ② 話し合い活動の充実につなげるための ICT 機器や副教材の活用 |

重要視しなければならないのは、なかまと関わる活動自体が目的ではなく、話し合い活動はその活動を通じて目標を達成するための手段であるということを、教師が認識しなければならないことである。研究大会以降もテーマを継続し、課題の解決と授業の向上をめざして研究を進めている。

新学習指導要領では「何ができるようになるか」を明確にする必要があるとされている。評価についても、これまでの 4 観点から「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」3つの柱で評価が再整理されており、これらの資質や能力を育成するためには、学習の質を一層高めるとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善も求められている。

これらのことを踏まえ、本部会では 29 年度以降も研究主題、サブテーマを変更せず、研究の視点に新学習指導要領の主旨を加味しながら、これまでと同様、サブテーマを「—なかまとの関わりを通して、学び合い高め合う生徒をめざして—」と設定し、一人一人が運動や健康への価値を見出し、豊かなスポーツライフにつながるような保健体育学習の在り方を考えていくこととした。

2 研究内容及び方法

(1) 研究内容

話し合い活動によって、「生徒が課題を見つける、目標設定をする、目標にむけてどう取り組むのかを考える」ための教師の手立てについて以下の点に注目する。

- ① PDCA を意識した授業計画を立てる。
- ② インプット・アウトプットへのアプローチのために、ICT 機器やワークシート、ホワイトボード等のツールを活用する。
- ③ 話し合い活動を充実させ、思考を深めるためにワークシートの中に「キーワード」を提示する。

「キーワード」とは、生徒が自分の課題を自分自身で見つけ、さらにその課題の答えを導き出すことができるようにするために、教師が提示するワードのことである。例えば生徒に学習課題を解決させたいときに、その解決につながるポイントを教師が提示する場合もあるが、今回はそのポイントを生徒自身に導き出させたいと考えた。そこで、そのポイントを導き出すためのヒントとなるようなワードを教師が提示することとした。そのワードのことを「キーワード」と表現している。

(2) 研究方法

- ① 授業でみられる生徒の姿の変容や実際の技術向上から検証する。
 - ・生徒の発言、ワークシート記入内容、話し合いの様子、実際の技能向上から検証する。
- ② 生徒のアンケートから検証する。
 - ・研究内容に関するアンケートを支部内で実施する。昨年度との比較や内容分析により検証する。

3 実践報告

実践事例 1 東かがわ市立大川中学校 第3学年 球技「ゴール型」

(1) 研究授業【授業者 谷口 真由 教諭】

3年生女子を対象として、バスケットボールの研究授業を行った。なかまや自分の動きを把握するために、試合分析カードやICT機器を活用した。また、自チームの動きやディフェンスの反応を確認し、気づいたことを個人の学習カードに記入させることで、次時につながる課題発見の手立てとした。話し合い活動については、試合分析カードやICT機器など、必要な教具を用いて自チームの分析を具体化させたり、生徒へのキーワードの提示や話し合いでの役割を明示したりすることで話し合いの活性化を図った。キーワードは1時間の中で3つ提示した。キーワードは「ボールマン」「オフボールマン」「ディフェンス」である。

(2) 学習指導案

① 目標

- 1) 攻めるための空間を作り出し、それを生かすことができる。
- 2) 積極的に意見を出し合い、作戦を立てることができる。

② 準備物

バスケットボール、ゼッケン、学習カード(個人)、分析カード(チーム用)
タブレット端末、筆記用具、水筒

③ 学習指導過程

学習活動	教師の指導及び支援	学習評価
1 集合・整列・挨拶をする	・ 生徒の様子を確認し、見学者がいれば活動について指示する。	
2 準備運動・チーム練習をする。 ・ ドリブル鬼ごっこ ・ ボールサイドカット ・ ブラインドカット ・ パスランプレイ	・ ケガ防止のために、特に指や足首のストレッチをするように助言する。 ・ オフボールマンの動きがシュートにつながるように、走るコースやスピードの強弱、タイミングに気をつけるように助言する。	
なかまと連携してゴール前の空間を使ったり、相手をかわしたりして、攻防を展開しよう。		
3 本時の学習内容・学習課題を知る。	・ 特にオフボールマンの動きについて、タイミングやゴール付近のスペースを生かすために、どう動けばよいのか、具体的な動きの確認ができるように助言する。 ・ 各チームの目標を意識してゲームができるように、今日の目標となる動きに近い動きをしている生徒を賞賛し、タイミングが合えば成功する動きなどを見つけて、ゲーム中に助言する。 ・ <u>試合分析カードやタブレットを使い、具体的な情報を基に話し合いができるように、助言する。</u> ・ <u>本時の目標を意識することが、得点につながることを改めて確認し、目標の中のキーワードを再確認するなど、話し合いの内容がずれないように助言する。</u> ・ 各チームで話し合いによりでてきた課題を意識してゲームができるように助言する。 ・ 個人やチームの学習カードを記入し、成功したことや課題について発表し、全体で共有する。	【技能】 A マークを外してフリーになり、ボールをつなぐことができる。 B 動いてボールをもらうことができる。 （観察）
4 前時のチームの課題や個人学習カードやゲーム分析カードを生かし、チームの目標を確認する。		
5 ゲームをする。 試合時間 2分 ① 赤－青 ② 白－黄 ③ 赤－白 ④ 青－黄 ⑤ 赤－黄 ⑥ 青－白		
6 各チームで話し合いをする。		
7 ゲームをする。		
8 本時のまとめをする。		

(3) 本時で使用したワークシート

バスケットボールゲーム分析カード () 組 ☆なかまと連携して、ゴール前の空間を使ったり、空間を作り出したりして、攻防を展開しよう！☆							
○前回の反省より本時のチームの目標は ・オフボールマンは、()。 ・ボールマンは、()。 ・ディフェンスは、()。							
対戦相手	シュートを打った 本数	ペイントエリアか ら打った本数	ボールサイドカット (相手の前を通る)	ブラインドカット (相手の後を通る)	バスランプレー	メモ	結果 (勝敗・点数)
VS							
中間ミーティング <u>ゲームを振り返り、次のゲームのチームの目標を具体的に考える。</u> ・オフボールマンは、()。 ・ボールマンは、()。 ・ディフェンスは、()。							
最終ミーティング <u>次回につながるヒントをメモしておこう。</u> ・() さん ・() さん ・() さん ・() さん							

本時のキーワードは3つ

「オフボールマン」

「ボールマン」

「ディフェンス」

(4) 生徒のワークシートより

- <オフボールマン>

 - ・相手のいない所に行く ・ディフェンスの前を通る ・声を出してパスをもらう
 - ・マークマンの隙をねらってボールを取りに行く

<ボールマン>

 - ・まずリングを見る ・ボールばかりではなく前を見る ・周り(味方)を見る
 - ・アイコンタクトや声を出すなど工夫する

<ディフェンス>

 - ・ボールとマークマンを見る ・ボールマンの目を見て動く ・敵の位置を声をかけて知らせる
 - ・離れないように一人が一人にしっかりつく

(5) 指導・助言(授業討議より)

- …良かった点

▲…今後課題にすべき点
- 本時は、動画を見て自チームのゲームを分析した。討議では、止めて静止画で話し合ったり、スロー再生でポジションを確認したり、動きを確認したり、課題発見につながる多くの活用方法についても提案された。
 - 動画は個人種目にも有効で、写す角度や動画を見せるタイミングなど、工夫することで生徒の気づきや思考、表現の深まりにつながる。
 - ゲーム分析することが、プレイの成功や勝つことにつながる体験を増やす。

- 本時はキーワードを提示しながら課題を見つける話し合い活動だったため、話の内容がそれなかった。キーワードを提示することは大切である。
- 自チームの動画を見ることで、チーム内でのアドバイスの数は明らかに多くなった。
- ▲ 授業の導入に全体で動画（良い動きを提示する等）を見て教師が解説して授業に入ると、生徒がイメージしやすくなる。また、良い動きを見る目も養うことができ、話し合いも深まる。
- ▲ 分析方法として、動画を見ながら課題を見つけるのは難しいので、視点を説明したり、求めている動きを提示したりする。
- ▲ 各班で気づいたことを交流させ、気づきを全体に広げる。ホワイトボードで言葉を共有する。
- ▲ 試合分析カードの項目(キーワード)を少なく、分かりやすく易しい言葉に変えることで、話し合い活動の要点をしぼる。
- ▲ 目標を一つにしぼることで、具体的な意見が出やすくなり、学びが深まる。目標が広く、多くなると視点が定まらない。

実践事例2 さぬき市立志度中学校 第3学年 球技「ゴール型」

(1) 研究授業【授業者 岩瀬 彩 教諭】

3年生女子を対象として、バスケットボールの研究授業を行った。まずは、「ノーマークを見つけること」を課題とした授業を行った。そして次の授業の課題である「ノーマークを作り出すこと」につながるよう指導した。連続して3対2のゲームを行うなかで、ボールを持っている場合とボールを持っていない場合の両方のオフェンスの動きの重要性に気付かせたいと考えた。そこでまずは「ボールを持っている人」をキーワードにし、ボールマンの動きに注目させた。次に「ボールを持っていない人」をキーワードにし、オフボールマンの動きに注目させた。そして、それぞれの授業の中から出てきた生徒の気づきをまとめて板書し、毎時間振り返りながら思考を深めた。また、ICT 機器を使用して、ディフェンスの動きや誰がノーマークなのかを確認したり、気づいたことを毎時間記録させたりして、話し合い活動が活性化していくように工夫した。キーワードは1時間の中で1つのみ提示した。キーワードは「ボールを持っていない人」である。また、各班で作戦ボードを使って作戦を立て、具体的にどう動けばよいかを可視化することで理解を深めた。

(2) 学習指導案

① 目標

- 1) 攻めるための空間を見つけることができる。
- 2) 積極的に意見を出し合い、作戦を立てることができる。

② 準備物

バスケットボール、ゼッケン、作戦ボード、タブレット端末、タブレット端末用の台、副読本

③ 学習指導過程

学習活動	教師の指導及び支援	学習評価
1 集合・整列・挨拶をする。	○ 全員の様子を確認し、見学者には授業への参加の仕方を指示する。	
2 準備運動、シュート練習をする。	○ ケガ防止のため、特に足首や手首をしっかりとストレッチするように助言する。	
3 本時の学習内容・学習課題を知る。	○ シュートが入らない生徒には、45度から打つよう助言する。	
	ノーマークを見つけて攻めよう。	
4 チームで課題を確認し、練習する。	○ 巡回指導し、個々に応じた助言をしたり、手本を見せたりする。また模範生との動きを見せ、具体的な解決策を提示する。	

5 試合をする。 ・オールコート3：2 ・DFは3ポイントラインより外に出てはいけない 前半 (6分) 作戦タイム (3分) 後半 (6分)	★ 生徒から出てきた意見に質問をする際は、付け加えをしたり別の言い回しをしたりして、理解を深められるようにする。 ○ 気付いたことを記録して、作戦タイムで班員に伝えるように助言する。さらにその際には、タブレットで撮影した映像を見るように助言する。 ○ 試合中に生徒同士でアドバイスをするように助言する。	【技能】 A ディフェンスの動きを見ながらノーマークの味方にパスができたか。 B 味方にパスができたか。(観察) 【思考・判断】 A オフボールマンの動きに注目してノーマークになる方法を考えることができる。 B オフボールマンの動きに注目して考えることができる。(観察・ワークシート)
6 本時のまとめをする。	○タブレットで撮影した映像を見ながらチームごとに話し合いをし、次の課題をワークシートに記入させる。	
7 整理運動・整列・挨拶をする。	○けがや体調不良等がないか確認する。	

(3) 本時で使用したワークシート

バスケットボール学習カード

()班()

課題① ノーマークを(見つけて)、攻めよう。
 =(DF がついていない)人

○映像をみるポイント「 DFがついていない人にパスができたか 」

<チーム>	<個人>	<チーム>	<個人>	<チーム>	<個人>
<気をつけたいこと> ●ボールを持っている人 ●ボールを持っていない人		<気をつけたいこと> ●ボールを持っている人 ●ボールを持っていない人		<気をつけたいこと> ●ボールを持っている人 ●ボールを持っていない人	

本時のキーワードは1つ
 「ボールを持っていない人」

「ボールを持っている人」は
 前時までのキーワードである

課題② ノーマークを(作って)、攻めよう。
 =(DF がいない)所へ動いて

○映像をみるポイント「 パスをした後、動いたか 」

<チーム>	<個人>	<チーム>	<個人>	<チーム>	<個人>
<気をつけたいこと> ●ボールを持っている人 ●ボールを持っていない人		<気をつけたいこと> ●ボールを持っている人 ●ボールを持っていない人		<気をつけたいこと> ●ボールを持っている人 ●ボールを持っていない人	

(4) 生徒のワークシートより

＜ボールを持っている人＞

- ・ 周りをよく見る（3ポイントラインの外で）
- ・ パスがダメならドリブルをする
- ・ ドリブルをしてDFを引きつける
- ・ パスをする人の名前を呼ぶ
- ・ 困ったら3ポイントラインより外に出る

＜ボールを持っていない人＞

- ・ 広がる（味方同士が離れる）
- ・ 手をあげる
- ・ DFの前に出てボールをもらう
- ・ あいている所（DFがいない所）に動く
- ・ あいていたら「はい」と言って味方に伝える

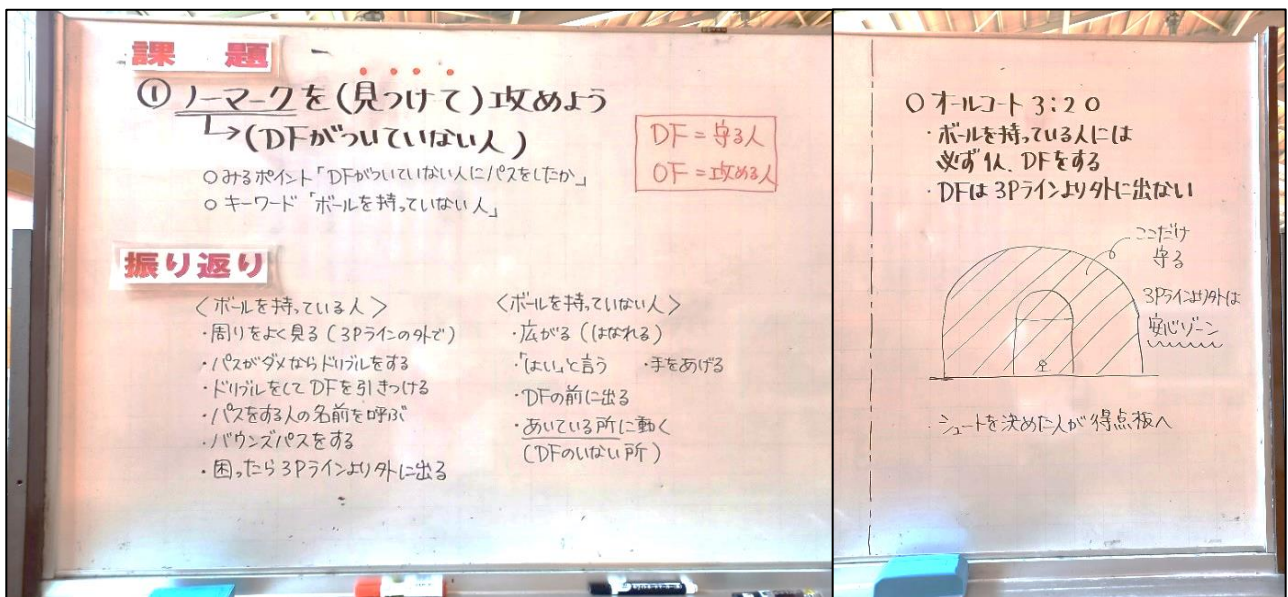
(5) 指導・助言(授業後のアンケートより)

◎…実践事例1の授業の課題を改善した点

○…良かった点

●…今後課題にすべき点

- ◎ 前時までの記録が一目で分かるように板書されており、振り返りや見るべきポイントを明確にしているので分かりやすい。それが話し合い活動の活性化につながっていた。
- ◎ すべての班の意見をまとめて板書したので、他の班の意見がよく分かった。
- ◎ キーワードを1つにしたことで、生徒が動画をみる際の視点が定まった。
- 目標に応じた振り返りができていた。
- ノーマークを見つけるという課題に向かう題材として、3対2の攻防は効果的であった。
- オフェンスの課題を見つけるためには、ディフェンス力を強化することが必要なことが確認できた。
- 作戦ボードを使用していない班があった。動きを確認するためには使用した方が深まると思った。



【前時までの学びが示されている板書】

実践事例3 各校の取り組み「剣道」

(1) 学習課題

「真っ直ぐ、大きな正面素振りをしよう」

(2) ポイント

- ・正しく構える。
- ・肩をしっかり使い左拳が頭上にくる。剣先が下がらない。
(拳の下から相手が見える)。
- ・振り上げたときに相手が見えている。
- ・打ったときに両腕が伸びて、肩の高さになっている。
- ・真っ直ぐ竹刀を振る。
(バレーボールでドリブルができるように)

- ・大きな声で面と発声する。 など

(3) キーワード

「上半身の使い方」「剣先30cm」



【話し合いの様子】

4 研究の成果と今後の課題

これまでの研究を継続し、話し合い活動の充実を図り、それが課題解決に直接つながるように重点を置いた授業を心がけた。さらに今年度は「思考を深めるためのキーワードを提示する」ということに重点を置き取り組んだ。

実践事例1の授業では「ボールマン」というキーワードを提示することによって、動画を見て分析する際、注目すべき点に関しては共通理解ができ、話し合いがスムーズに進んだ。ただし、キーワードが「ボールマン」という専門用語だったため、バスケットボール部員はよく分かるが、それ以外の人は説明を聞いた上であっても、どういう人がボールマンなのか混乱し、理解するのに時間を要した。そこで、実践事例2の授業では「ボールマン」というキーワードを「ボールを持っている人」に変更することで、共通理解しやすくなった。このことからキーワードは聞き慣れた言葉にすることも大切であると感じた。次に実践事例1の授業では、キーワードを1時間の授業の中で3つ提示したが、動画を見て分析する際に注目すべき人が多くなり、結果的に話し合いの際に要点をしぼりにくくなった。さらにキーワードが多すぎると、分析することが目的になってしまい、学びが深まらない場面も見られた。そこで、実践事例2の授業ではキーワードを1つにしぼった。そうすると話し合うポイントをしぼりやすくなり、意見交換もスムーズに進み、思考の深まりがみられた。その結果、試合でボールを持っている人がノーマークの味方にうまくパスができる回数が増えた。このことから、教師が意図的にキーワードの数をしぼることが必要であると感じた。

実践事例3より、個人競技は各々で目標や課題が変わってくる場合があり、それを達成するためのポイントや、そのポイントに気付かせるためのキーワードもそれに応じて変わってくる。その場合、全員が同じキーワードでよいのか、またはキーワードの数は1つでよいのかなど、教師の課題が見えた。

思考を深めるためのキーワードを提示することで、これまでと比較しても、話し合い活動の中で生徒が自分や自チームの課題に気づきやすくなり、課題解決に向けてのより効果的な話し合いがもてるようになった。その結果、試合中の味方への声かけがより具体的な内容になったり、動きに迷いがなくなったりした生徒が増えた。さらに、次時の課題設定においても、より詳しく細かな点に注目する生徒が増えた。しかし、ICT機器を用いた動画再生において、見せるタイミングや場面、動画、静止画、スロー再生など、課題解決に向けてより効果的な活用の仕方があることを改めて感じた。

また、団体競技や個人競技といった競技性によって、教師が提示するキーワードの内容や数を変えながら授業を進める必要があることが分かった。そして、キーワードは生徒たちから出てくる疑問点や気付きから導き出す方法も取り入れていくと、さらに思考が深まるのではないかと考えられる。

今後は、どのようなキーワードが生徒の思考をより深めることができるかを教師が考え、的確なキーワードを提示できるようにすることが必要である。そして、課題解決に直結させるための思考や分析の流れを生徒にどう意識づけるか、また、思考や分析をする力をどうやって高めるかをこれからも継続して研究していきたい。